

(農)尾引ファミリーが収入差プレミアム方式の勉強会を開催

【平成 28 年8月5日掲載】

7月8日、庄原市の(農)尾引ファミリー(永谷信義(ながたにのぶよし)代表、構成員 11 名、経営面積 15ha、繁殖牛 10 頭規模)が一般社団法人全国農業経営コンサルタント協会会長で税理士の森剛一先生を講師に招き、新たな「収入差プレミアム方式」の導入に向けて勉強会を開催し、実際に運用した場合の留意点やその解決策について理解を深めました。

当法人の和牛繁殖部門は、飼養担当者の労務改善意欲を引き出し、法人経営の安定化につなげるため、今年度から経営の成果が自らの労賃に反映される「収入差プレミアム方式」を試験的に導入しています。更に、今回は、労賃の一部を退職金として積み立てる仕組みにすることにより、よりメリットが大きく、安定的なものとなるよう、検討を行いました。その結果、平成 29 年度からの本格運用に向けて準備を進めていくことになり、これから法人内の規定や飼養担当者との契約内容を詳細に詰めていくことになりました。

管内の集落法人での水稲中心の経営では年間を通した雇用を確保しにくい状況にあり、水稲以外の品目を導入した場合でも、時間給で労賃を支払う仕組みでは作業効率の改善につながらず、法人経営の負担になる可能性があります。

しかし、この仕組みの導入により、新たな担い手が確保でき、法人経営の安定化につなげることが期待できます。北部農業技術指導所では、この法人の取組をモデルとして進め、他法人へも導入検討し、普及していく予定です。



【(農)尾引ファミリー役員と森先生(前列右から2番目)】



【森先生の講義を真剣に聴く役員】

